

天敵製剤

トップシリーズの上手な使い方

トップシリーズが届いたら…

- 輸送用箱から取り出し、不具合(死滅など)の有無をご確認ください。
万一不具合状態で届きましたら、お手数ですが弊社もしくはご注文店(JA)にお申し出ください。
- これまで使用した農薬が天敵生物に影響しないか再度確認しましょう。
- 到着後、当日中に全て放飼し、使い切ってください。
- 万一放飼が翌日になる場合は、容器を新聞紙に包んで乾燥を防ぎ、冷蔵庫の野菜室で保管してください。冷凍保管は絶対にお止めください。

害虫を発生させない環境を作りましょう

- 本圃への害虫寄生苗の持ち込み防止
 - ▶ 育苗の段階から粘着捕虫資材を利用しましょう。
 - また、定植時に粒剤などを利用すると効果的です。
- 施設内外の除草(害虫発生源の除去)
 - ▶ 雑草が大きくなってからではなく、こまめに除草を行いましょう。晩冬の頃に除草剤を利用すると効果的です。
- 施設開口部への防虫ネット展張
 - ▶ 側窓、天窓等の施設開口部に害虫侵入防止用ネットを張りましょう。出入り口にも忘れずに。

天敵生物が活動しやすい環境にしましょう

天敵製剤は、各製剤の天敵生物が施設内で活動することで効果が現れます。
各導入天敵生物の活動最適温度が保てるように、施設内の温度を管理しましょう。

オンシツツヤコバチ	20℃～28℃	ククメリスカブリダニ	17℃～25℃
サバクツヤコバチ	20℃～30℃	タイリクヒメハナカメムシ	25℃～30℃
チリカブリダニ	27℃～30℃	コレマンアブラバチ	20℃～25℃
ミヤコカブリダニ	15℃～30℃	ナミテントウ	20℃～30℃
イサエアヒメコバチ	20℃～25℃		

■弊社天敵製剤補助資材のご紹介

【アグリ・トップ®天敵ふりまき器】

天敵製剤の放飼用容器です。天敵ふりまき器を使用することで、天敵生物と緩衝材を混和させながら放飼できます。放飼量は天敵ふりまき器の放飼口で調整できます。





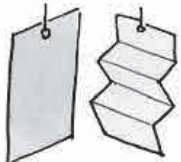

トップシリーズの導入方法と上手な使い方

天敵製剤名 (天敵生物名)	ツヤトップ (オンシツツヤコバチ) ツヤトップ25 (オンシツツヤコバチ)
導入方法	<p>10aあたり2箱～×4回 ツヤトップの導入の目安:約30株/カード ツヤトップ25の導入の目安:約15株/カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直射日光が当たらない葉柄等に吊り下げ、施設全面に放飼しましょう。 ・1週間毎の連続導入がおすすです。 ・初回導入から約4週間後、下位葉裏にオンシツツヤコバチのマミー(蛹)が確認されはじめます。
上手な使い方	<p>①導入後は、オンシツツヤコバチの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。</p> <p>②粘着捕虫資材のコナジラミ成虫捕虫数が多い場所付近には集中的に放飼しましょう。</p> <p>③コナジラミの蛹を観察し、寄生数(黒化蛹の数)が少ない場所へは追加放飼しましょう。</p> <p>参考:オンシツツヤコバチのマミー(蛹)の色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンシツツコナジラミに寄生した場合:黒色 ・タバココナジラミに寄生した場合:淡褐色
天敵製剤名 (天敵生物名)	サバクトップ (サバクツヤコバチ)
導入方法	<p>10aあたり2箱～×4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直射日光が当たらない葉柄等に吊り下げ、施設全面に放飼しましょう。 ・1週間毎の連続導入がおすすです。 ・初回導入から約4週間後、下位葉裏にサバクツヤコバチのマミー(蛹)が確認されはじめます。
上手な使い方	<p>①導入後は、サバクツヤコバチの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。</p> <p>②粘着捕虫資材のコナジラミ成虫捕虫数が多い場所付近には集中的に放飼しましょう。</p> <p>③コナジラミの蛹を観察し、寄生数(淡黄色蛹の数)が少ない場所へは追加放飼しましょう。</p>
天敵製剤名 (天敵生物名)	チリトップ (チリカブリダニ)
導入方法	<p>10aあたり3ボトル～×3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放飼する前に10分間ボトルを横に寝かせます。 ・放飼直前にボトルをゆっくり10～20回程度横回転させ、中身を混和してから施設全面に放飼しましょう。 ・チリカブリダニは、ハダニのコロニー内に定着します。
上手な使い方	<p>①中身を混和する際、手荒にボトルを振るとチリカブリダニが圧死するため、ゆっくり横回転させましょう。</p> <p>②ハダニの発生場所とその周辺には、多めに放飼しましょう。</p> <p>③導入後は、チリカブリダニの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。</p> <p>④チリトップ導入から数週間は、葉面散布剤の使用は避けてください。</p>
天敵製剤名 (天敵生物名)	ミヤコトップ (ミヤコカブリダニ)
導入方法	<p>10aあたり3ボトル～×3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放飼する前に10分間ボトルを横に寝かせます。 ・放飼直前にボトルをゆっくり10～20回程度横回転させ、中身を混和してから施設全面に放飼しましょう。 ・ミヤコカブリダニは、ハダニ類がいないときは、花粉等を餌として生活し、ハダニ類を待ち伏せします。
上手な使い方	<p>①中身を混和する際、手荒にボトルを振るとミヤコカブリダニが圧死するため、ゆっくり横回転させましょう。</p> <p>②ハダニの発生場所とその周辺には、多めに放飼しましょう。</p> <p>③導入後は、ミヤコカブリダニの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。</p> <p>④ミヤコトップ導入から数週間は、葉面散布剤の使用は避けてください。</p>
天敵製剤名 (天敵生物名)	ヒメトップ (イサエアヒメコバチ)
導入方法	<p>10aあたり2ボトル～×3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放飼は天窓を閉じて夕方に行いましょう。 ・ボトルを静置する場合は、水がかからない場所を選びましょう。 ・ハモグリバエ幼虫の死亡状況(褐色になる)を確認することで、イサエアヒメコバチの活動状況がわかります。
上手な使い方	<p>①導入後の葉かきは、いつもより遅めに行いましょう。</p> <p>②導入後は、イサエアヒメコバチの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。</p> <p>③ハモグリバエ類による食害が多い時期は、粘着捕虫資材等を設置してハモグリバエ成虫を捕虫しましょう。</p>


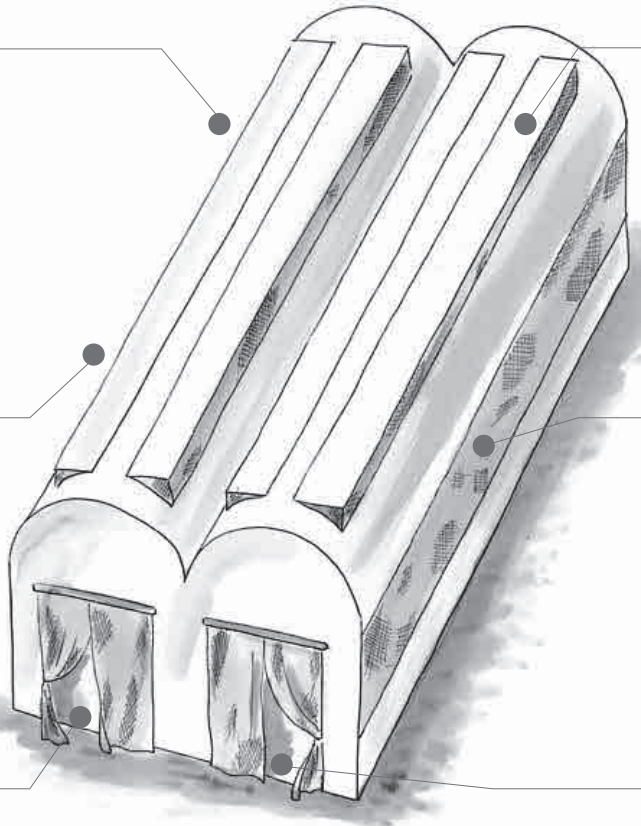
トップシリーズの導入方法と上手な使い方

天敵製剤名 (天敵生物名)	メリトップ (ククメリスカブリダニ)
導入方法	10aあたり3ボトル～×3回 <ul style="list-style-type: none"> ・放飼する前に10分間ボトルを横に寝かせます。 ・放飼直前にボトルをゆっくり10～20回程度横回転させ、中身を混和してから施設全面に放飼しましょう。 ・ククメリスカブリダニは主に花内部に定着します。
上手な使い方	<ol style="list-style-type: none"> ①中身を混和する際、手荒にボトルを振るとククメリスカブリダニが圧死するため、ゆっくり横回転させましょう。 ②施設の側窓付近には多めに放飼しましょう。 ③花部内を観察し、ククメリスカブリダニが確認できない場合は追加放飼しましょう。 ④導入後は、ククメリスカブリダニの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。
天敵製剤名 (天敵生物名)	リクトップ (タイリクヒメハナカメムシ)
導入方法	10aあたり1,000頭～を数回にわけて放飼 <ul style="list-style-type: none"> ・タイリクヒメハナカメムシの定着が確認できるまで導入しましょう。 ・アザミウマ類の発生が確認された場所や粘着捕虫資材に捕虫が確認された場所付近の葉上に放飼しましょう。
上手な使い方	<ol style="list-style-type: none"> ①粘着捕虫資材へのアザミウマ類捕虫数が多い場所付近には集中的に放飼しましょう。 ②導入後は、タイリクヒメハナカメムシの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。 ③導入初期に定着を向上させることが成功のポイントです。
天敵製剤名 (天敵生物名)	コレトップ (コレマンアブラバチ)
導入方法	10aあたり4ボトル～×3回 <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシの発生箇所が点在している場合は、小分けにしてアブラムシ発生株元毎に静置しましょう。 ・初回導入から約3週間後、コレマンアブラバチのマミー(黄金色)が確認されはじめます。
上手な使い方	<ol style="list-style-type: none"> ①ヒゲナガアブラムシ類には効果はありません。発生しているアブラムシの種類をよく確認しましょう。 ②アブラムシの発生を目視や粘着捕虫資材で1頭以上確認したら導入開始です。 ③静置する場所は水がかからない場所を選びましょう。 ④導入後は、コレマンアブラバチの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。
天敵製剤名 (天敵生物名)	テントップ (ナミテントウ2齢幼虫)
導入方法	発生場所1m²あたり10頭～ アブラムシ発生場所付近の葉上に小分けにして放飼しましょう。
上手な使い方	<ol style="list-style-type: none"> ①大型のアブラムシ類(ヒゲナガアブラムシ等)の防除にも有効です。 ②導入後は、ナミテントウの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。 ③放飼したナミテントウがアブラムシの寄生している場所へ移動するまで散水や薬剤散布は避けましょう。 ④放飼後、2週間程度で蛹になります。蛹の期間(約6日間)はアブラムシを捕食しないため、アブラムシの発生量に応じて追加放飼を行いましょう。
天敵製剤名 (天敵生物名)	テントップ (ナミテントウ2および3齢幼虫:50頭入り/100頭入り/200頭入り)
導入方法	発生場所1m²あたり10頭～ アブラムシ発生場所付近の葉上に小分けにして放飼しましょう。
上手な使い方	<ol style="list-style-type: none"> ①大型のアブラムシ類(ヒゲナガアブラムシ等)の防除にも有効です。 ②導入後は、ナミテントウの活動最適温度を目安に施設内温度を維持しましょう。 ③放飼したナミテントウがアブラムシの寄生している場所へ移動するまで散水や薬剤散布は避けましょう。 ④放飼後、2週間程度で蛹になります。蛹の期間(約6日間)はアブラムシを捕食しないため、アブラムシの発生量に応じて追加放飼を行いましょう。

導入前に施設環境をチェックしましょう

<p>農薬の残効</p> <p>農薬残効表は確認しましたか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>	<p>葉の観察</p> <p>ダニや害虫が増加していませんか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>	<p>粘着捕虫資材</p> <p>モニタリングは始めましたか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>	<p>温度</p> <p>天敵が元気に働ける温度ですか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>
--	---	--	--

ハウス内部

<p>ハウスの内縁・周辺</p> <p>除草し、害虫発生源の除去はしていますか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>		<p>天窗</p> <p>防虫ネットは張ってありますか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>
<p>残さの処理</p> <p>害虫の発生源とならないように処理はしていますか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>		<p>側窓</p> <p>防虫ネットは張ってありますか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>
<p>カーテン下</p> <p>害虫の集積になっていませんか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>		<p>出入り口</p> <p>防虫ネットは張ってありますか？</p>  <p>MEMO _____</p> <p>CHECK _____</p>

お問い合わせ先：株式会社アグリセクト <http://www.agrisect.com>

電話番号：029-840-5977

FAX番号：029-840-5988